

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都工芸繊維大学
設置者名	国立大学法人京都工芸繊維大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
工芸科学部	応用生物学課程 応用化学課程 電子システム工学課程 情報工学課程 機械工学課程 デザイン・建築学課程		13	0	0	13	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Web による公開 https://www.syllabus.kit.ac.jp/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都工芸繊維大学
設置者名	国立大学法人京都工芸繊維大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

Webによる公表 https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/organize/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2026年4月1日 ～2027年3月31日	コンプライアンス
非常勤	株式会社堀場製作所 理事	2026年4月1日 ～2027年3月31日	産学協創
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都工芸繊維大学
設置者名	国立大学法人京都工芸繊維大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 毎年2月に次年度開講する全科目について、総合教育センター長から授業担当教員に授業計画(シラバス)の作成依頼を行い、4月1日にWeb公開している。総合教育センターでは、シラバスの全記載項目について、審議・決定している他、各授業科目において、適正に記載されているか随時点検も行っている。掲載項目は以下のとおり。 【シラバスの項目】 ■科目分類 学部等、学域等、課程等、分類、今年度開講、年次、学期、曜日時限 ■科目情報 時間割番号、科目番号、単位数、授業形態、クラス、授業科目名、担当教員名、インターンシップ実施科目、国際科学技術コース提供科目、PBL 実施科目、実務経験のある教員による科目、DX 活用科目、科目ナンバリング ■授業の目的・概要 ■学習の到達目標 ■学習目標の達成度の評価基準 (JABEE 関連科目のみ) ■授業計画項目・内容 ■履修条件 ■授業時間外学習(予習・復習等) ■教科書/参考書 ■成績評価の方法及び基準 ■留意事項等	
授業計画書の公表方法	Web による公開 https://www.syllabus.kit.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価の方法及び基準は、評価に用いる手段(試験、小テスト、レポート等)及びそれらの配分割合や判定基準等を科目毎に設定し、シラバスに明示するとともに、それらの学修成果を厳格かつ適正に評価し単位認定を実施している。なお、学期ごとに教員及び学生それぞれに対しアンケートを実施し、単位付与又は履修認定が適正に実施されているか確認している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生に対して、適切に学修指導を行い、学生の学習意欲を向上させることを目的に、学修の状況及び成果を示す指標として GPA 制度を導入し、評価基準等を Web で公開している。

全学生に配付する履修要項に GPA 制度の趣旨を記載し、また新入生に対するオリエンテーションにおいて説明を行っている。この評価基準に基づき算定した GPA 値を記載した成績表を学期毎に学生に交付している。

また、課程長など各教育組織の責任者が各学生の GPA や単位取得状況、課程内の分布などを確認できる Web システムを構築し、学修指導に活用している。GPA の算出方法については以下のとおり。[京都工芸繊維大学工学部履修規則(抜粋)]

第 14 条 授業科目の成績評価は、S、A+、A、B+、B、C+、C、又は F をもって表し、S、A+、A、B+、B、C+ 及び C を合格とし、F を不合格とする。なお、履修中止を W、単位認定を行った授業科目を認定と表記する。

2 前項に規定する各評価に対応する評点、ポイント及び評価の基準は、次のとおりとする。

評価	評点	ポイント	評価の基準
S	90 点～100 点	4.0	学習目標を十分に達成し、すべての面で特に優秀な成果をあげた。
A+	85 点～89 点	3.5	学習目標を十分に達成し、すべての面で優秀な成果をあげた。
A	80 点～84 点	3.0	学習目標を十分に達成し、ほとんどの面で優秀な成果を、一部において良好な成果をあげた。
B+	75 点～79 点	2.5	学習目標を達成し、一部において優秀な成果を、ほとんどの面で良好な成果をあげた。
B	70 点～74 点	2.0	学習目標を達成し、すべての面で良好な成果をあげた。
C+	65 点～69 点	1.5	学習目標を最低限達成し、一部において良好な成果をあげたが、ほとんどの面で合格となる最低限の成果にとどまった。
C	60 点～64 点	1.0	学習目標を最低限達成し、すべての面で合格となる最低限の成果であった。
F	60 点未満	0.0	学習目標に達せず、ほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の成果がなかった。

3 学生の学習意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資するため、第 1 項の成績に当該学年の GPA(Grade Point Average)(当該学生が受講登録をした全ての授業科目(第 8 条の規定により履修を中止したものを除く。))に係る 1 単位あたりの成績の平均値をいう。以下同じ。)及び入学後の累積の GPA を併記するものとする。

4 GPA は、次に掲げる算式により算出するものとする。なお、算出の対象となる授業科目は、次の各号に掲げる科目を除く全授業科目とする。

- (1) 単位互換科目
- (2) 単位認定を行った科目
- (3) 卒業要件外科目

$$GPA = \{(S \text{ の修得単位数} \times 4.0) + (A+ \text{ の修得単位数} \times 3.5) + (A \text{ の修得単位数} \times 3.0) + (B+ \text{ の修得単位数} \times 2.5) + (B \text{ の修得単位数} \times 2.0) + (C+ \text{ の修得単位数} \times 1.5) + (C \text{ の修得単位数} \times 1.0)\} \div \text{総登録単位数}(F \text{ を含む。})$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

Web による公開

https://www.kit.ac.jp/01/reiki_int/reiki_honbun/u042RG00000195.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学では工芸科学部および各課程の教育研究上の目的を達成するため、学位授与の判断のための基本的な考え方、また期待する能力をディプロマ・ポリシーとして示し、Web で公開している。 【京都工芸繊維大学工芸科学部ディプロマ・ポリシー】 工芸科学部では、「教育研究上の目的」に掲げた「幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力・リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系専門技術者（TECH LEADER）を養成すること」を達成するために、本学卒業生が共通に有すべき能力として、以下に掲げる「工織コンピテンシー」を定めています。また各課程において、それぞれの専門的立場からディプロマ・ポリシーを規定しています。これらの工織コンピテンシーおよび各課程のディプロマ・ポリシーに則った専門的知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生を、TECH LEADER となりうる人材と認め、「学士（工学）」（応用生物学課程においては「学士（農学）」）の学位を授与します。卒業に必要な単位数や修業年数（卒業要件）は、本学通則および工芸科学部履修規則に定められています。 工織コンピテンシー ■ 専門力 ・ 自らの学習領域における高度な専門知識・技術を有している。 ・ データ分析活用能力を有している。 ・ 思考力、判断力、ならびに、創造力を有している。 ・ 新しい技術を国内外から学び、改善し発展させる能力を有している。 ・ 課題の本質を見極め、その解決に向けた計画を立案し、論理性を持った説明により、他者の理解を得て、実行する能力を有している。 ・ 技術者としての倫理性を有している。 ■ リーダーシップ ・ 多様性の中でビジョンを掲げ他者を巻き込みながら目的を達成する能力を有している。 ・ 強い自己肯定感を持ち、新たな環境下で忍耐力をもって、チャレンジし、チームを課題解決に導く能力を有している。 ・ 専門の異なる多様な人々と、建設的な議論と相補的な協働を行い、成果へと導く能力を有している。 ・ 社会の情勢や時代の潮流を見極め、経営マインドをもって物事にチャレンジする能力を有している。 ■ 外国語運用能力 ・ 母国語以外の外国語で社会生活での話題について会話をを行い、表現をする能力を有している。 ・ 海外から多様な情報や先端技術を自ら収集するとともに、習得した専門知識・技術について外国語で論述できる能力を有している。 ■ 個の確立 ・ 生まれ育った国や地域の伝統文化・習慣や歴史、宗教等についての知識を有している。 ・ 言語や文化習慣、宗教など価値観の違いを柔軟に受け入れて円滑にコミュニケーションができる。 ・ 多様化する社会の中でも揺るがない個を有している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	Web による公開 https://www.kit.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/05/2024_B-DP.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都工芸繊維大学
設置者名	国立大学法人京都工芸繊維大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/financial-affairs-information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/financial-affairs-information/
財産目録	該当なし
事業報告書	https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/financial-affairs-information/
監事による監査報告(書)	https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/auditor-report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: Webによる公開 https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/self-monitoring/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法：Web による公開） https://www.kit.ac.jp/01/reiki_int/reiki_honbun/u042RG00000195.html
（概要） ■応用生物学域 【応用生物学課程】 人類は有史以前から、生物機能を利用し穀物栽培、家畜飼育、養蚕、醸造などを行い生活に役立ててきました。しかし、20 世紀後半からヒトを含む様々な生物のゲノム情報、つまり生命の設計図が明らかにされ生命科学は劇的に発展しました。このような生命科学の発展にともない、バイオテクノロジーも深化し、その成果は、医療・農業などの分野で応用され、我々の生活に役立っています。例えば、抗体医薬、有用物質の生産、iPS 細胞による細胞・組織の再生、ゲノム編集による品種改良、新しいタイプのワクチン開発などが進み、人類の生活を大きく変化させようとしています。科学の進歩は私たちの生活を豊かにしましたが、一方で地球の温暖化と環境汚染、人口増加による食糧不足、高齢化・社会の複雑化によるアレルギー・がん・脳疾患などの老化関連疾患の増加をもたらしました。これらの諸問題を解決できるきわめて有効な方法の一つはバイオテクノロジーです。このような社会背景に鑑み、本学域では、生体分子から細胞・個体レベルに至る広範な領域の基礎生命科学とバイオテクノロジーに関する高度な知識・技術・展開能力を有し、諸課題を解決し社会に還元することで、安全で幸福な持続的社会的実現に貢献できるグローバルな先端技術者・研究者を養成します。 ■物質・材料科学域 【応用化学課程】 本学域では、物質・材料の成り立ちから応用までを俯瞰でき、基礎から応用までの幅広い知識(総合力)と高い専門性の素養を身に着けた、次世代の物質や材料の開発と探求ができる人材を育成します。具体的には、「基礎力」「応用・実践力」「異分野融合力」「国際化」の四つの視点に基づいて、以下に記す人材の育成を目指します。 ●基礎力 原子・分子レベルの理解から高精度な材料設計まで、知的好奇心と探究心を原動力とする物質・材料科学分野の基礎科学の深掘りによって、幅広い知識と洞察力を備えた人材を育成します。 ●応用・実践力 本物志向と時代に即した柔軟な対応という京都ならではの価値観に基づき、物質・材料科学研究分野における社会課題の解決に貢献する応用力・実践力を備え、オリジナリティの高い科学技術の創生を追求する人材を育成します。 ●異分野融合力 異分野どうしの積極的な交流により、個々の基礎分野の相互理解を深め、知識と技術を相互活用・融合させることによって、新しい研究分野を創出することのできる人材を育成します。 ●国際化 海外との積極的な交流とグローバルな情報発信能力の開発によって、物質・材料科学分野の次代を担う国際的視野を有する研究者・技術者となる人材を育成します。 ■設計工学域 本学域の目的は、歴史都市「京都」が育んだ知と技の下で、未来へ向けて工学的な新価値を創造する高度専門技術者や研究者を育成することにあります。工学とは、数学や物理学等

の基礎理論あるいは自然原理に基づき、社会に役立つ事物を具現化し、さらには安全で快適な環境を構築するための応用的学問です。しかし、すでに英知を結集して工学的発展を遂げた今日において、新価値を継続的に生み出すことは容易ではありません。これを実現するためには、①数学や物理学を基礎とする専門知識(電子システム工学、情報工学および機械工学)の習得だけでなく、②自身の分野を超えて異なる視点から種々の着想を統合させる力の育成が必要です。同時に、③豊かな想像力から発して新しい製品やシステムを自ら思い描き、それを具現化する行動力が求められます。さらには、④自身の国籍に拘ることなく、多様性の受容と柔軟なコミュニケーションを通じた世界変化の洞察力が必要となります。本学域では、上記①～④の素養を身に着けた人材を体系化された教育プログラムを通じて育成します。以下に、本学域の3課程それぞれで育成する具体的な人材像を示します。

【電子システム工学課程】

電子システム工学分野に関する幅広い知識と技術に基づいた高度な専門性を身につけ、社会を支える基幹産業で活躍するとともに、電子システム工学分野にブレークスルーをもたらし得る課題探求能力と課題解決能力に優れており、かつ、論理的な思考力とコミュニケーション能力を備えた人材を育成します。

【情報工学課程】

製造・サービスなどのさまざまな産業の根幹を支える ICT 分野でリーダーシップを取って活躍する人材、および、ICT を活用した先進的なシステムの開発やサービスの創出・提供によって持続可能かつ豊かな情報社会の構築に貢献する人材を育成します。

【機械工学課程】

機械工学の基礎的学問である材料力学、流体力学、熱力学、機械力学の知識と技術に立脚し、社会基盤を支えると共により良い生活を実現する先進的機能を有する機械の創出を担うことができる高度専門技術者や研究者を育成します。

■デザイン科学域

【デザイン・建築学課程】

本学域は、歴史と先端、地域性と国際性、芸術と科学が同居する京都という地において、デザイン学と建築学を一つの視野の下にとらえ、デザインによる社会問題の解決を目指す教育研究をおこなっています。その教育研究の対象は、地球から人間までの広がりを持つ自然・都市・建築環境、プロダクトやヴィジュアルあるいは建築物などのものづくり、社会・経済構造や人の意識・感性といった人間・社会関係、といった多様なスケールと対象に及びます。

現代社会が直面する複雑な諸問題を解決するためには、対象を一元的に捉えるのではなく、横断的あるいは多元的にとらえるための視野が不可欠です。また、諸問題の解決は、短期で意味を失うものであってはならず、過去から未来への時間軸を意識した未来への耐性のある解決でなければなりません。これらの問題に対し、京都という地に学ぶ3つの思考、すなわち既存社会や既存物からなる文脈に対峙し物質や価値の循環を思考する〈循環思考〉、歴史に対する深い理解のもとで未来を考える〈歴史思考〉、異なるものの間を絶えず横断し、融合を目指す〈融合思考〉によってアプローチしていきます。

本学域では、Pluriversal(多元的)な自然と社会の創造をめざし、〈京都思考〉を思考の基盤に据えながら、Future Proof Design(未来への耐性があるデザイン)によって社会問題を解決する人材を育成します。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：Web による公開）

https://www.kit.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/05/2024_B-DP.pdf

（概要）

【様式第2号の3 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要 4. に掲載】

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web による公開）

https://www.kit.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2025/04/2025_B-CP.pdf

（概要）

本学では、国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者（TECH LEADER）の育成を行うために、「3×3（スリー・バイ・スリー）」と呼ぶ教育プログラム・システムを採用しています。「3×3」は、TECH LEADER 育成の基本となる大学院工芸科学研究科博士前期課程までの6年間とその後の博士後期課程の3年を含めた9年間を見据えたシステムです。最初の「3」にあたる学部3年次までに、専門課程での基盤となる専門力を確実に修得するとともに、英語を基本とした外国語運用能力、TECH LEADER としてのリーダーシップおよび個の確立を育むことができるよう教育プログラムを構成しています。次の「3」は学部4年次と大学院博士前期課程（2年）の3年間を指し、学部4年次（大学院博士前期課程に進学予定の場合には、この年次を「M0（エムゼロと呼ぶ）」は、各自が修得した専門力を基に卒業研究（地域創生 Tech Program では、卒業プロジェクト）に取り組むとともに、学部4年次に大学院博士前期課程の授業科目の先行履修が可能となるよう構築されています。これにより新たに生まれる時間を、研究はもちろんのこと、さらに深い教養力を養い育てる高年次教養科目の履修や、キャリア形成に寄与するインターンシップへの参加、さらには留学・学会発表などに振り向けることにより、3年間の学部・博士前期課程において効率的・高密度な修学が可能となっています。

工芸科学部ではカリキュラム・ポリシーとして、学部ディプロマ・ポリシーに掲げる工繊コンピテンシー（専門力、リーダーシップ、外国語運用能力、個の確立）と、各課程のディプロマ・ポリシーに掲げる各専門分野に応じた能力を身につけることができるよう、以下の方針を採っています。

1. 外国語運用能力を身につけるため、基本とする英語の修得を義務づけるとともに、複数の初修外国語科目を開設しています。これらの科目の修得は、個の確立を育むことにも寄与します。

2. 理工系専門技術者としての教養を身につけるために全学共通科目に「基盤教養科目」「実践教養科目」「高年次配当科目」の科目群を設けています。1年次から4年次に亘り、人文、社会、自然の諸分野から学修することで、主体的に思考する深い教養を培い、本学が目指す TECH LEADER の素養としての個の確立やリーダーシップを育むことを目標としています。

3. 各専門課程では、その専門分野に必要な基本リテラシー、専門概要・動向を学ぶために、1年次に「専門導入科目」を設け、その修得を義務づけています。

4. 理工系専門技術者としての基礎的な力を身につけるために、専門性の特性によって4つに分類された学域（応用生物学域、物質・材料科学域、設計工学域およびデザイン科学域）毎に「専門基礎科目」群を設け、一定単位以上の修得を義務づけています。

5. 実践力の伴う専門職業能力を確実に身につけるために、講義だけでなく実験・実習・演習等にも重点をおいて体系化された「課程専門科目」群を設け、一定単位以上の修得を義務づけています。3年次には、各課程の専門知識等を確認する判定が行われます。

6. 理工系専門技術者としての研究能力、開発能力を身につけるために、4年次には「卒業研究（地域創生 Tech Program では、卒業プロジェクト）」の修得を義務づけています。卒業研究等を履修するためには、各課程で定められた単位を修得しておかねばなりません。

7. 「地域創生 Tech Program」は、各課程の一般教育プログラムに加え、各課程の専門知識および技術をベースに、地域産業の活性化や地域課題の解決に向けて、グローバルな視野で新産業を興すために必要な知識や、チームで協働して課題解決に取り組むリーダーシップ精神を有する人材を育成する学位プログラムです。この学位プログラムは、各課程における専門科目に加えて、地域課題をテーマとしたセミナー科目や企業と共同した課題解決型学習 PBL（Project-Based Learning）によるものづくりインターンシップ科目を履修する構成となっており、理工学の様々な専門分野を学んだ人材が協働学習する PBL に重点をおいています。地域創生 Tech Program の学生は、PBL 科目を受講したうえで卒業プロジェクトを実施します。

8. 教育プログラムは、授業科目にナンバリングを付すことによって科目間の関連や科目内容のレベルを表し、体系的にわかりやすく編成されています。

また、各授業科目の学習成果は、試験、レポート、発表、授業への参加意欲等により、目標の達成度に応じて評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web による公開）

https://www.kit.ac.jp/test_index/school-science-and-technology/

（概要）

【応用生物学課程】

＜人材育成の目標＞

バイオテクノロジーに関する高度な知識、技術、展開能力を有し、諸課題を解決し社会に還元することで、安全で幸福な持続的社会的の実現に貢献するグローバルな技術者・研究者を育成します。

＜選抜の方針・ポリシー＞

大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、教科・科目に係る個別テストでは、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力を測り、大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テストと調査書等を総合し、求める能力・適性を判定します。

＜求める能力・適性＞

- ・ 総合的学習能力、柔軟な発想、論理的な思考力
- ・ 自然科学を学ぶための生物、化学、数学、英語などの基礎学力
- ・ 生命と自然に対する深い興味、探究心と観察力

【応用化学課程】

＜人材育成の目標＞

物質・材料の成り立ちから応用までを俯瞰でき、基礎から応用までの幅広い知識（総合力）と高い専門性の素養を身に付けた、次世代の物質や材料の開発と探求ができる人材を育成します。

＜選抜の方針・ポリシー＞

大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、教科・科目に係る個別テストでは、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力を測り、大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テストと調査書等を総合し、求める能力・適性を判定します。

＜求める能力・適性＞

- ・ 創造的、論理的思考力、柔軟で独創的な発想、チャレンジ精神と行動力
- ・ 自然科学を学ぶための化学、物理、数学、英語などの基礎学力とその応用・発展能力
- ・ 実験科学に対する深い興味と人文科学、社会科学への幅広い関心
- ・ 課題に向かって情熱的に取り組む意欲、化学に対する旺盛な好奇心
- ・ 物質や材料、生体関連物質に対する好奇心、学習意欲

【電子システム工学課程】

＜人材育成の目標＞

電子、通信、電気、計測、制御工学分野に関する知識と技術について、理論と実践の両面からバランスよく修得し、社会を支える幅広い産業分野で活躍する人材の育成を目指します。

＜選抜の方針・ポリシー＞

大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、教科・科目に係る個別テストでは、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力を測り、大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テストと調査書等を総合し、求める能力・適性を判定します。

＜求める能力・適性＞

- ・ 数学、物理や英語などの基礎学力
- ・ 論理的思考力、ならびに修学に必要な基礎知識
- ・ 自然現象に対する好奇心と洞察力
- ・ チャレンジ精神と行動力

【情報工学課程】

＜人材育成の目標＞

製造・サービスなどのさまざまな産業の根幹を支える ICT 分野でリーダーシップをとって活躍する人材、および、ICT を活用した先進的なシステムの開発やサービスの創出・提供によって持続可能かつ豊かな情報社会の構築に貢献する人材を育成します。

＜選抜の方針・ポリシー＞

大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、教科・科目に係る個別テストでは、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力を測り、大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テストと調査書等を総合し、求める能力・適性を判定します。

＜求める能力・適性＞

- ・ 数学、物理や英語などの基礎学力
- ・ 論理的な思考力や表現力
- ・ 好奇心、チャレンジ精神と行動力

【機械工学課程】

＜人材育成の目標＞

単に機械工学に係る個々の専門知識を習得するだけでなく、それらを統合させる能力や、科学技術の発展の方向や時代と社会の変化の動向を把握し、まだ想像されていない新しい製品やシステムを思い描き、それを具現化する行動力、さらには、自身の国籍に拘ることなく、多様性の受容と柔軟なコミュニケーションを通じた世界変化への洞察力を身に付けた機械工学に係る新価値を創造する高度専門技術者や研究者を体系化された教育プログラムを通じて育成することを目指します。

＜選抜の方針・ポリシー＞

大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、教科・科目に係る個別テストでは、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力を測り、大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テストと調査書等を総合し、求める能力・適性を判定します。

＜求める能力・適性＞

- ・ 数学、物理や英語などの基礎学力
- ・ ものづくりが好きで、創意工夫して忍耐強く問題に取り組む力
- ・ 自然に対する興味や好奇心、注意深い観察力
- ・ 論理的思考力、創造力、チャレンジ精神と行動力

【デザイン・建築学課程】

＜人材育成の目標＞

歴史と先端、地域性と国際性、芸術と科学が同居する京都という地において、デザイン学と建築学を広い概念としての「デザイン」として一つの視野の下にとらえ、自然・都市・建築環境、ものづくり、社会・経済構造、人間・社会関係といった多様な社会問題に対し、デザインによる解決ができる人材の育成を目指します。

＜選抜の方針・ポリシー＞

大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、教科・科目に係る個別テストでは課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力や総合的な学力を測り、大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト等と調査書等を総合し、求める能力・適性を判定します。

＜求める能力・適性＞

- ・ 緻密な論理的思考力と社会に対する洞察力、それを支えるバランスのとれた学力
- ・ 美や造形に対する関心と感受性
- ・ 人間や社会およびビジネスに対する関心と理解力
- ・ コミュニケーション能力と協調性
- ・ 新しい可能性に向けての創造力と表現への熱意

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：Web による公開 https://www.kit.ac.jp/uni_index/principle/organize/ https://www.kit.ac.jp/uni_index/publication/
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	5 人	－					5 人
その他	－	109 人	90 人	2 人	57 人	2 人	260 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2 人		203 人					205 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.liaison.kit.ac.jp/researchers_db/ https://researchmap.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工芸科学部	583 人	604 人	103.6%	2432 人	2645 人	108.8%	50 人	47 人
合計	583 人	604 人	103.6%	2432 人	2645 人	108.8%	50 人	47 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工芸科学部	607 人 (100%)	506 人 (83.4%)	81 人 (13.3%)	20 人 (3.29%)
合計	607 人 (100%)	506 人 (83.4%)	81 人 (13.3%)	20 人 (3.29%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 【様式第2号の3より再掲】 毎年2月に次年度開講する全科目について、総合教育センター長から授業担当教員に授業計画（シラバス）の作成依頼を行い、4月1日にWeb公開している。 総合教育センターでは、シラバスの全記載項目について、審議・決定している他、各授業科目において、適正に記載されているか随時点検も行っている。 掲載項目は以下のとおり。 【シラバスの項目】 ■科目分類 学部等、学域等、課程等、分類、今年度開講、年次、学期、曜日時限 ■科目情報 時間割番号、科目番号、単位数、授業形態、クラス、授業科目名、担当教員名、インターンシップ実施科目、国際科学技術コース提供科目、PBL実施科目、実務経験のある教員による科目、DX活用科目、科目ナンバリング ■授業の目的・概要 ■学習の到達目標 ■学習目標の達成度の評価基準（JABEE関連科目のみ） ■授業計画項目・内容 ■履修条件 ■授業時間外学習（予習・復習等） ■教科書/参考書 ■成績評価の方法及び基準 ■留意事項等

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

【様式第2号の3より再掲】

学生に対して、適切に学修指導を行い、学生の学習意欲を向上させることを目的に、学修の状況及び成果を示す指標として GPA 制度を導入し、評価基準等を Web で公開している。

全学生に配付する履修要項に GPA 制度の趣旨を記載し、また新入生に対するオリエンテーションにおいて説明を行っている。この評価基準に基づき算定した GPA 値を記載した成績表を学期毎に学生に交付している。

また、課程長など各教育組織の責任者が各学生の GPA や単位取得状況、課程内の分布などを確認できる Web システムを構築し、学修指導に活用している。GPA の算出方法については以下のとおり。

[京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則（抜粋）]

第14条 授業科目の成績評価は、S、A+、A、B+、B、C+、C、又はFをもって表し、S、A+、A、B+、B、C+及びCを合格とし、Fを不合格とする。なお、履修中止をW、単位認定を行った授業科目を認定と表記する。

2 前項に規定する各評価に対応する評点、ポイント及び評価の基準は、次のとおりとする。

評価	評点	ポイント	評価の基準
S	90点～100点	4.0	学習目標を十分に達成し、すべての面で特に優秀な成果をあげた。
A+	85点～89点	3.5	学習目標を十分に達成し、すべての面で優秀な成果をあげた。
A	80点～84点	3.0	学習目標を十分に達成し、ほとんどの面で優秀な成果を、一部において良好な成果をあげた。
B+	75点～79点	2.5	学習目標を達成し、一部において優秀な成果を、ほとんどの面で良好な成果をあげた。
B	70点～74点	2.0	学習目標を達成し、すべての面で良好な成果をあげた。
C+	65点～69点	1.5	学習目標を最低限達成し、一部において良好な成果をあげたが、ほとんどの面で合格となる最低限の成果にとどまった。
C	60点～64点	1.0	学習目標を最低限達成し、すべての面で合格となる最低限の成果であった。
F	60点未満	0.0	学習目標に達せず、ほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の成果がなかった。

3 学生の学習意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資するため、第1項の成績に当該学年の GPA(Grade Point Average)(当該学生が受講登録をした全ての授業科目(第8条の規定により履修を中止したものを除く。)に係る1単位あたりの成績の平均値をいう。以下同じ。)及び入学後の累積の GPA を併記するものとする。

4 GPA は、次に掲げる算式により算出するものとする。なお、算出の対象となる授業科目は、次の各号に掲げる科目を除く全授業科目とする。

- (1) 単位互換科目
- (2) 単位認定を行った科目
- (3) 卒業要件外科目

$$GPA = \{ (S \text{ の修得単位数} \times 4.0) + (A+ \text{ の修得単位数} \times 3.5) + (A \text{ の修得単位数} \times 3.0) + (B+ \text{ の修得単位数} \times 2.5) + (B \text{ の修得単位数} \times 2.0) + (C+ \text{ の修得単位数} \times 1.5) + (C \text{ の修得単位数} \times 1.0) \} \div \text{総登録単位数}(F \text{ を含む。})$$

(卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること)

【様式第2号の3 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要 4. に掲載】

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工芸科学部	応用生物学課程	134 単位		
	応用化学課程	134 単位		
	電子システム工学課程	134 単位		
	情報工学課程	134 単位		
	機械工学課程	134 単位		
	デザイン・建築学課程	134 単位		
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : Web による公開
<施設等> ○土地・建物 https://www.kit.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2025/08/gaiyou2025.pdf#page=22 ○厚生施設・研修施設・課外活動施設 https://www.kit.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2025/08/gaiyou2025.pdf#page=22 ○学生食堂・売店 https://www.kit.ac.jp/campus_index/life_fee/store/ <その他学修環境> ○図書館利用について https://www.kit.ac.jp/campus_index/library/ ○英語自習プログラム https://www.kit.ac.jp/campus_index/english/ ○共同利用 PC https://www.cis.kit.ac.jp/services/sharedfacilities/pc/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工芸科学部		535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) (1) 入学料・授業料免除及び徴収猶予 修学支援新制度による入学料・授業料免除制度のほか、経済的理由により入学料・授業料の納入が困難な者に対して、入学料・授業料の徴収猶予制度を設けている。 (2) 特待生制度 学業成績が極めて優秀な2～4年次生を対象に、前期分授業料の全額を特別に免除する制度を設けている。 (3) 各種奨学金制度 日本学生支援機構による奨学金を始め、地方公共団体・民間育英団体の奨学金の募集・応募に際して、様々なサポートを実施している。 (4) スタディ・アドバイザー 履修や修学上の相談、将来の進路に関する相談等、学生諸君の様々な相談に対応するため、各課程の教員を、スタディ・アドバイザーとして配置している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) (1) キャリアカウンセラーによる就職相談の実施 (2) 就職活動に関するガイダンス及び採用選考対策研修の実施 (3) キャリア教育に関する講義の実施 (4) インターンシップに関するガイダンス及びインターンシップ選考対策研修の実施 (5) 学内でのキャリア教育及び就職支援に関するイベントの開催（合同企業説明会等） (6) 博士後期課程への進学に関するイベントの開催
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) (1) 保健管理 保健管理センターでは、学生及び教職員の心身の健康維持・増進を図るため、定期健康診断や特殊健康診断、健康相談（診察）などを行っているほか、医師・看護師が不慮の疾病やケガに対する応急処置を行うとともに、必要に応じ医療機関への紹介も行っている。 (2) 心理カウンセリング・障害学生支援 アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターでは、学生の方々の心の悩み、人づきあい、困りごと、気持ちの整理など、何でも相談を受け付けている。また、障害のある学生の修学上の配慮に関して、学内外の組織・機関と連携し、適切な配慮を受けることができるよう支援している。 (3) ピア・チューター制度 障害等により修学上の様々な困難を抱える本学学生を、授業や大学生活上においてサポートする本学学生による学生の支援制度を設けている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：Webによる公開 https://www.kit.ac.jp/uni_index/publication/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F126110107425
学校名（〇〇大学 等）	京都工芸繊維大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	国立大学法人京都工芸繊維大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		552人（378）人	551人（366）人	「－」人（390）人
内 訳	第Ⅰ区分	136人	125人	
	（うち多子世帯）	（29人）	（23人）	
	第Ⅱ区分	52人	52人	
	（うち多子世帯）	（－）	（－）	
	第Ⅲ区分	32人	44人	
	（うち多子世帯）	（－）	（－）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	44人	38人	
	区分外（多子世帯）	288人	292人	
家計急変による 支援対象者（年間）				「－」人（0）人
合計（年間）				579人（390）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	13人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	16人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	12人	人	人
計	23人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	-	人	人
G P A等が下位4分の1	82人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	18人	人	人
計	89人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。